

1 1 月度支部役員会議事録

日本建築学会近畿支部

期 日：平成29年11月27日（月） 15：00～17：00

会 場：支部会議室Ⅱ（閲覧・会議室）

出席者 三輪支部長

常 議 員 秋 田、川 辺、木 下、倉 田、笹 村、宮 内、向 井
阪 田、島 野、竹 林、角 田、松 原

支部監事 川 野

事 務 局 児 玉

【審議事項】

（1）前回議事録（案）確認の件

- 事務局より役員各位へ事前に送付された議事録(案)の内容は、確認のうえ承認された。

（2）11月度理事会および支部長会議の報告

- 11月22日(水)に開催された理事会および支部長会議については、支部長が纏めた報告概要書および議事次第、合わせて一部の配布資料により報告が行われた。
- 理事会の主な審議事項としては、「2018年度予算編成上の基本方針（案）について」、「委託研究の受託について」、「新名誉会員推挙について」、「支部交付金内規，支部費交付細則の改正について」、「2019年度，2020年度学会大会開催担当支部について」などであった。
- 理事会の主な報告事項としては、「大阪府構造計算適合性判定指摘事例集への指摘について」、「司法支援建築会議の会員候補者推薦依頼について」などであった。
- 支部長会議の主な報告としては、「共催・後援・協賛に関する規定（案）について」、「法人賛助会員の増口について」、「2018年度「建築学会女性会員の会」の開催依頼」、「動画配信，eラーニングについて」などであった。

（3）支部報告 1. 事業報告

2. 会計報告

- 事務局より報告があり、承認された。

（4）2018年日本建築学会文化賞候補業績推薦の件

- 候補者の推薦がなかったため、今回は推薦を見送ることにした。

(5) 2018年日本建築学会大賞業績候補推薦書類確認の件

- 役員会にて当支部から住田昌二先生（大阪市立大学名誉教授）を推薦することが承認された。
- 推薦関係書類の提出については、本部の農村計画委員会も同氏を推薦される予定なので、書類作成担当者に提出時期を合わせてもらうよう依頼することにした。
- 当支部から提出する推薦書類の「功績概要書」「功績理由書」については、次回の役員会へ提出していただくよう担当者に依頼することとした。

(6) 第73期当支部常議員候補の件

- 常議員7名の改選にあたり、役員会に届けられた8名については全員を本部へ届けることが承認された。

(7) 第19期当支部代議員候補の件

- 代議員9名の改選にあたり、候補者となった10名について確認が行われ、全員を本部へ届けることが承認された。

(8) 平成30年度 調査研究事業費（部会費総額）決定の件

- 来年度の研究事業費総額は、2,800,000円(本部研究補助費の40万円を含む)とすることが決定した。
- 部会毎の予算については、当支部研究委員会において年度内に検討することになった。

(9) 当支部創立70周年記念講演会、式典当日、記念祝賀会の当日(11/29)について

- 当日の事業内容について、改めて確認された。
- 当日の役割分担にあたっていない役員についても、積極的に参加するよう支部長から指示があった。

(10) 「阪神・淡路大震災被害実態緊急調査被災度別建物分布状況図集」GISデータ使用許可願い

依頼団体：(公社)地盤工学会関西支部から

- 依頼の内容については出席役員で検討した結果、データの使用については許可することとした。

(11) フジテック(株)からの退会届に対する対応について

- 退会に関する再考のお願いについては、支部長および事務局に一任することが承認された。
- 事務局から企業に対し訪問の申し出を連絡することとした。

(12) その他

- 下記の調査研究依頼については、必要とされる提出書類を確認した結果、受託願い書の一部を修正するよう指示することとして、受託については承認された。
- 受託したすべての委託調査研究の成果報告書は、役員会へ提出するよう委託者に指示することとした。

○委託調査受託依頼の件

『仮称) 柏の葉キャンパス162街区計画』に関する周辺風環境及び
計画建物に作用する風圧力の風洞実験調査

- 委託者 三井不動産レジデンシャル
(株) 長谷工コーポレーション 大阪エンジニアリング事業部
- 担当委員会 当支部風環境調査研究委員会
委員長 谷口 徹郎 (大阪市立大学大学院 教授)
- 期間 契約締結日 ~ 2018年 8月31日
- 研究費 10,900,000円 (消費税込み)

【報告事項】

(1) 当支部耐震構造研究部会主催シンポジウム終了(11月6日)に伴う収支報告

- 11月6日に当支部耐震構造研究部が主催(共催: 日本建築構造技術者協会関西支部)して開催されたシンポジウムでは、80,000円強の剰余金を得て終了したことが報告された。
- 来年度以降については、部会員にも配慮した周知方法(部会開催通知)がされるよう、事務局より部会へ連絡することとした。

以上